

外国人が誤解する「ちょっと」

北海道ハイテクノロジー専門学校
日本語学科
金 成願

【背景】

4月に日本へ来てから、少しずつ日本語が話せるようになり、日本人の友達もできた。

友達と日本語で話していると、「あれ？どういう意味だろう？」と感ずることが少なくない。友達に「これ、ちょっと高いね」と言われ、「え？“ちょっと”じゃなくて、“すごく”高い！」と思ったことがあった。そのとき、きちんと勉強しているのに、どうして誤解が生じるのだろうかと感じた。

【目的】

「ちょっと」という言葉は日本人が日常的によく使う言葉である。外国人も耳にする機会が多い。この言葉を深く理解すれば、日本人のように話せるようになりたいという目標に少しでも近づくのではないかと考え、「ちょっと」という言葉について研究しようと思った。

【結果】

「ちょっと」を辞書で調べると、5つの意味がある。

- I. すこし
- II. 軽い気持ち
- III. 無理・出来ない
- IV. 人に呼びかける
- V. ある程度・思ったより

まず、これらの意味に合う言葉が外国語にあるのかどうかを調べた。韓国語、中国語(台湾で使われている)、ドイツ語、英語の4つの言語で比較した。

すると、I～IVの「ちょっと」は、外国語にも似た表現があることがわかった。

	韓国語	中国語	ドイツ語	英語
I	조금	一下	kurz	a little
II	조금	一下	kurz	a bit
III	조금	有點		x
IV	조금	一下	kurz	x
V	꽤	非常	recht	a fairly

しかし、Vの「ちょっと」だけは、他の言語では、まったく逆の意味の言葉を使うことがわかった。

次に、I～Vの「ちょっと」が外国人向けの初級日本語の教科書では、どのように提示されているかを調べた。その結果、Vの「ちょっと」だけは、教科書には載っていなかった。つまり、外国人はVの「ちょっと」を勉強する機会がない可能性があることがわかった。

【考察】

日本人が使う「ちょっと」の中で「ある程度・思ったより」という意味の「ちょっと」は、外国人が使う日本語の教科書には載っていないため、外国人はその意味が理解できない。日本人が自然に使う「ちょっと」という言葉でも、外国人は誤解してしまう可能性が高い。その誤解を少しでも減らすためにも、日本語の教科書には、5つ全ての「ちょっと」を載せるべきだと考える。

今後、日本語を勉強していく中で、一つの言葉で複数の意味を持つ言葉に出会うことがあっても、きちんと意味を理解し、正しい使い方ができるようにしていきたい。